

西中学校だより



# 一本の樹

校訓 しなやかに すこやかに

令和7年1月31日  
第10号  
上尾市立西中学校長  
宮田 純生

## 恕（じょ）の心

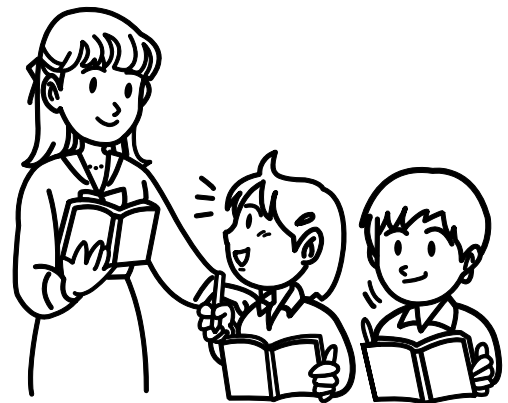
校長 宮田 純生

中国の思想家の孔子の教えを弟子たちがまとめた「論語」の中に「子貢問ひて曰く、一言にして以て終身之を行ふ可き者有りやと。子曰く、其れ恕か。己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ」とあります。

これを現代の言葉で言うと、「子貢（弟子の一人）が『先生、たった一語で、一生それを守っておれば間違いのない人生が送れる、そういう言葉がありますか』と聞きました。孔子は『それは恕かな』と答え、恕は「自分がされたくないことは人にしてはならない。」と説いています。つまり「人の立場に立って考える（思いやり）」ということです。他を受容し、認め、許し、その気持ちを思いやる。自分のことのように人のことを考える。それが、人生で一番大切なことではないかと孔子は弟子に教えています。

元京都大学総長の平澤先生（故人）は、教育における「恕」「思いやり」とは、褒めることであると言っています。「教育の現場では思いやりとは何か。それは褒めることである。これが非常に大事である。絶対に人は褒めなければいけない。褒められることによって人は成長する。教育の基本の第一は、あくまで褒めること。第二は、できるまでやらせること。第三は、自分もそれを実行すること。これは人間が歩き出すときの姿である」と語っています。

赤ちゃんが初めて歩き出した時、どの親も褒めます。「あんまり上手じゃないな」と言うような親はいません。どんな歩き方をしても褒めます。転んでも、ひっくり返っても褒めます。そして、できるまでやらせます。赤ちゃんが歩き出して転んで、「もう歩かなくてもいい」と言う親はいません。歩けるようになるまで辛抱強く見守ります。そして、お父さんもお母さんも一緒に歩きながら手をたたいて導いたりします。これが教育の原点であると平澤先生は言われていたそうです。



そして、「教育とは褒めて、励まして生徒の心に火をつけることである。火をつけて燃やすことだ」と言われています。そして「火をつけるためには、教える側の人燃えるような情熱を持っていなければいけない」とも言われています。さらに、「褒める時に、ただ上辺だけを見ているような褒め方はだめだ。褒める時には、裏まで見えるような人でないと、本当の褒め方ができない。褒めるには、褒める方がしっかりとした行いをしていなければならない。褒めることは、そう簡単なことではない。人の欠点が目につく間は、まだ駄目だ。それらの欠点が飾りに見えるようになれば本物だと思います」と言われています。（記憶の中なので不確かかもしれません）

学校でも地域でも保護者でも共通する子どもの育て方であると思いますので掲載させていただきました。